

民具の機能分析に関する基礎的研究

期間：2017年4月1日～2021年3月31日

〔代表者〕 神野善治（武蔵野美術大学）

〔共同研究者〕

佐野賢治（日本常民文化研究所）

眞島俊一（テム研究所）

山田昌久（首都大学東京）

山川志典（静岡県富士山世界遺産センター）

〔研究協力者〕 川野和昭（南方民俗文化研究所）

佐々木長生（福島県民俗学会）

鍋田尚子（ベトナムタンロン大学）

宮本八恵子（日本民具学会）

安ヶ川恵子（富山民俗の会）

〔業務協力者〕 長井亜弓

形態と機能の分類基準を見出す

——個別情報から基本形態を設定——

研究代表者 神野 善治



写真1 「手の形態と機能」と民具の関わりをテーマにした展覧会「くらしの造形 20 手のかたち・手のちから」展を見ながら、研究班の主題について意見を交わす（於：武蔵野美術大学）



写真2 作業班が抽出した「基本形態」を分類基準案として提示。その可能性について議論した（於：国際常民文化研究機構）

本研究では、「民具の機能分析に関する基礎的研究」を、共同研究メンバーの地域的な個別研究と重ねて、作業チームによる分析作業を重視して進め、目標である民具の機能分類の基準を模索してきた。本研究では、さまざまな民具の情報を観念的にとらえるのではなく、すぐれたコレクションのデータをもとに、実際に使われてきた民具の形態と機能について、実物資料に基づきながら、個別情報を汲み取る作業を行った。具体的には、これまでに富山県砺波地方の民具コレクション約3,000点から、形態と機能に特徴のある個体1,200件を抽出。それぞれの形態と機能を読み取る作業を行った。その作業の成果から帰納的に形態と機能の分類基準を見出すことをめざしたのである。リスト化はほぼ完了し、その読み取り成果を共同研究メンバーがそれぞれの地域や研究テーマに即していかに提示するかが、最終的な課題である。

本研究の最終年度に当たる2019年度の共同研究会は、武蔵野美術大学で開催した「くらしの造形 20 手のかたち・手のちから」展での検討から始めた。本展は、本研

究班の代表神野が企画・監修したもので、人の手の「かたち（形態・姿）」と「ちから（機能・能力）」を主テーマにした。神野の考える形態および機能に関する分類の妥当性を、「手」の形態と機能を出発点にして問うたものである（写真1）。続く第2回共同研究会では、砺波の民具コレクションから抽出した民具から、それぞれの基本的な形態を書き出す作業を行ったことを紹介。その分類の可能性を検討する作業を行った（写真2）。また、図録『砺波の民具』（砺波郷土資料館、1998-99年）からの抽出作業で生じた疑問点を解消すべく、砺波民具展示室を再訪（写真3）したほか、年度最後の活動となった共同調査は、農業中心の砺波の民具と性格の異なる（海の漁撈や鉾山の民具など）重要有形民俗文化財コレクション4件を保有する佐渡市の博物館・収蔵施設を訪ね、資料を実見するとともに、それぞれの収集に関与された研究者と懇談して、今後の研究の展開を検討することをめざした（写真4）。

当初の目標である対象民具コレクションの分析作業は、国際常民文化研究機構での作業班の活動および、研究会でとりまとめを行ってきたが、あとはメンバーの個別研究により完了する。分析成果を2020年度末に刊行予定の報告書と、実施が計画されているシンポジウムで表明し広く紹介する計画である。

本共同研究では、基本的にひとつのコレクションを分析対象として新たな分析方法を提示することを目指したが、今後、性格が異なる各地のすぐれた民具コレクションについても同様の分析が行われることを提案して、汎用性のある分析方法への展開をうながしたい。

■ 2019年度の活動

- 2019年度第1回共同研究会 2019年8月18日・19日 武蔵野美術大学、国際常民文化研究機構 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・安カ川恵子・長井亜弓、三橋光太郎（勝井デザイン事務所デザイナー）・眞島麗子（TEM研究所研究員）
- 第2回共同研究会 2019年12月7日・8日 国際常民文化研究機構 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・安カ川恵子・長井亜弓
- 砺波民具展示室民具調査 2020年2月4日・5日 砺波民具展示室 神野善治・長井亜弓
- 佐渡市民具調査 2020年2月22日～24日 新穂歴史民俗博物館、両津郷土博物館、佐渡博物館、佐渡国小木民俗博物館、相川郷土博物館 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・長井亜弓、池田哲夫（新潟大学名誉教授）・柳平則子（元相川郷土博物館館長）



写真3 砺波郷土資料館の脊戸高志館長にご協力いただき、写真や文字資料ではわからない細部について、実際の民具資料を前に確認（於：砺波民具展示室）



写真4 実物大千石船の復元に関わられた高藤一郎氏にご案内いただき、資料を実見した（於：佐渡国小木民俗博物館と千石船展示館）